

京都大学シンポジウムシリーズ「大震災後を考える」
—安全・安心な輝ける国づくりを目指して—

第50回玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会

巨大地震と津波

日時：平成23年**10月26日**(水)午後3時

場所：京都大学北部総合教育研究棟1階
益川ホール (市バス「京大農学部前」下車)

対象：学部生・大学院生・教員・一般

参加費：無料(申し込み不要)

*お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ちしています

2011年東北地方太平洋沖超巨大地震(Mw9.0)が 我々に伝えること

京都大学大学院理学研究科 教授

平原 和朗 先生

東北地方太平洋沖地震はMw9.0の超巨大地震で、強震動特に巨大な津波を発生させ、東北から関東におよぶ広い地域に未曾有の大災害をもたらしました。私を含む多くの地震学者はこの地震の発生を前にして、想定外という術しか持たず言葉を失いました。

では、いったい何を想定していたのか、またなぜ、どのようにしてこの地震は発生したのか、現在までに分かったこと、依然不明なこと、といったこの超巨大地震が我々に発するメッセージについてお話ししたいと思います。

さらに、この地震の発生を受けて今世紀前半に起きると危惧されている南海トラフ巨大地震とどのように向き合うかについても少しお話ししたいと思います。

地層に記録された巨大津波の警告

産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター長

岡村 行信 先生

東北地方太平洋沖地震は想定外の地震であると言われていますが、西暦869年(貞観11年)に仙台付近で巨大地震と巨大津波が発生していたことを示す歴史記録があり、また仙台平野などの地層中には巨大津波が繰り返し襲っていたことを示す津波堆積物が存在することも知られていました。特に津波堆積物の詳細な調査によって、津波の浸水域を明らかにし、数値計算によって震源モデルの推定も行われていました。

このような研究によって地震前にどこまで明らかになっていたか、実際に発生した地震と比較して何が足りなかったかを解説します。

また、東北地方以外の津波堆積物についても簡単に紹介いたします。

◆玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会について◆

玉城嘉十郎先生は京都大学理学部において理論物理学を講じられ、在職中53歳の若さで他界されました。ご他界後30年に当たり、先生のご意志に基づいて、ご遺族より奨学のために多額のご寄付を頂き、先生を記念して毎年公開の学術講演会を開くことになりました。第1回は1969年秋、以後42年、回を重ねること今回で50回に達しました。講演テーマは必ずしも既存の専門にとらわれず、明日の学問への展望をひらくものをと心がけて選ばれています。

本講演会は、専門の研究者だけでなく学生諸君の参加も多く、またもとより公開でありますので、少数ながら熱心な一般聴衆の方々にも好評を博しております。

主催：京都大学理学部 (財)湯川記念財団

お問い合わせ：京都大学理学研究科 総務掛

TEL: 075-753-3600 FAX: 075-753-3645

E-mail: somu@office.sci.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>

..... 会場までのアクセス



市バスは.....
JR/近鉄京都駅・阪急河原町・
京阪出町柳から・・・17系統
地下鉄烏丸今出川から・・・203系統
が便利です